

家族のカタチにかかわらず、 誰もが生き生きと暮らしていける、 包摂された社会を

「NPO法人インクルいわて」
理事長 山屋 理恵 さん



理事長の山屋さん(右側)と事務局長の佐々木さん(左側)

山屋 理恵 さん プロフィール

インクルいわて理事長。2011年10月から現職。これまで消費者問題、多重債務、貧困問題など生活困窮者支援に取り組む。2012年2月から社会的包摂サポートセンター中央盛岡責任者・東北コーディネーターも兼ねる。

● NPO法人 インクルいわてへの想い

インクルいわてでは、2011年3月11日の東日本大震災後、さまざまな分野で活動していた女性たちが集まり、2011年10月に立ち上げました。母子家庭や父子家庭などの「ひとり親家族」支援を中心に、被災女性支援や子ども支援の活動を行っています。

私たち活動しているメンバーがひとり親家族の当事者なのかどうか聞かれることがあります。当事者かどうかは関係ありません。母子家庭の女性が働いて子どもを育てて生きていくことが難しい社会というのは、どんな女性にとっても働くことが難しい社会です。父子家庭の男性が子育てのために職場で十分に認められない社会というのは、どんな男性にとっても子育てが楽しめない社会です。ひとり親家族が生きづらい社会は、どんな女性にとっても男性にとっても、仕事と家庭が両立できない社会であり、そんな状況を変えたいと思うメンバーが、震災後それぞれ行っていた支援活動のなかで、自然に集まりました。ひとり親家族の当事者であろうとなかろうと、誰でも関係する、自分たちにもかかわる、社会的な問題だと考えて、活動しています。

インクルいわてという名前は、ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂/社会的包容)という理念をもとに名づけました。目指している将来像(ビジョン)は、家族のカタチにかかわらず、誰もが生き生きと暮らしていける、包摂された社会(インクルーシブ・ソサイエティ)を実現することです。まずは、ひとり親家族の親と子が、楽しく、明るく、未来への可能性を広げ、健康で文化的な



●「インクルフェア」での一場面。
カネボウ化粧品さんによるハンドマッサージ

自立した生活を送ることができるよう、当事者に寄りそいながら活動するとともに、地域社会にも働きかけ、ひとり親家族への理解と共感を深め、いわゆる差別や偏見などがなくなるよう活動していきたいと思っています。

● 平成24年度の活動

○インクルフェア(6月15、16日)

in アイーナ(盛岡市盛岡駅西通)
私たちの活動の理念を知ってもらい、多くの方々と出会うために、インクルフェアと名づけたイベントを2日間行いました。母子家庭の使える制度セミナー、被災して盛岡に避難してきた女性たちの分かち合いの会、震災支援ボランティアによるランチ提供、子どものお楽しみ会、弁護士や相談員による相談会など、多くの方にご協力いただき、多くの方々と出会うことができました。また、カネボウ化粧品さんによるハンドマッサージコーナーも大好評でした。

○シンポジウム「ひとり親家族支援を考える」(7月1日) in アイーナ

地域社会に働きかけ、社会的な認識を深める目的で、「ひとり親家族支援を考える」というシンポジウムを行いました。国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩さんによる「震災・貧困・社会的排除」の問題に関する講演のあと、県の児童家庭課にご協力をいただき「ひとり親家

族の現状」についてお話を賜りました。その後、母子家庭・父子家庭の当事者団体のお話、医療現場からみたひとり親家族の問題など、造詣の深い方々からパネルディスカッション形式でお話をいただき、約100名の参加者とともにこの問題を考えました。

○ひとり親家族サポーター養成講座
フェーズI(8月4、5日)
in 盛岡劇場・河南公民館

in 盛岡市松尾町
フェーズII(8月11、12日)

in プラザおでっ(盛岡市中野ノ通)
フェーズIII(8月11、12日)

社会的理解を深め、より多くの方々と活動していただきたいという目的から、サポーター養成講座を開催しました。DV、離婚、就労、子育て、子ども、法律問題など、多方面の知識を得るために、多くの講師の方々にご協力をいただきました。岩手県全域から延べ300名の方々にご参加いただき、この問題に関する知識を得たというニーズの高さを感じました。私たちが普段活動できない地域からのご参加もあり、それぞれの地域で活動されてきた方々となることができ、また参加者どうしの横のつながりができたことも大きな収穫でした。

○中間就労支援事業「インクルーム」
(10月1日〜3月31日まで)

育児等で長い間仕事から離れていた方や、仕事を始めたいけれどまだちょっと心配がある方などが、いきなり社会に出て仕事をすることは容易なことではありません。この事業は、そういった方々を対象に、社会に出て就労するまでの生活リズムを作ることを目的としています。社会に出て行くための支援活動が必要であると実感しているところです。まだ継続中ですが、この就労支援事業には大きな意味があると感じており、今年の6月頃にきちんと社会に向けて発信したいと思います。